



世界中の
ものづくりの
課題解決屋になる。

2027年3月期 第1四半期

決算説明資料

2026年8月7日（金）

リックス株式会社：証券コード：7525（東証プライム・福証）

RIX リックス株式会社

Point 01

売上・営業利益が過去最高
活況な業界ニーズをつかんだ
電子・半導体、工作機械業界が業績をけん引

- 中でも、売上高と営業利益は過去最高
- 活況な業界ニーズをつかんだ「電子・半導体」「工作機械」のセグメントが業績をけん引
- 上記の2セグメント向けには自社製品の販売が多いため利益面でも大きく貢献

Point 02

今期より
「食品・医薬品・化粧品」セグメントを新設

- これまでセグメント「その他」に含まれていた食品、「高機能材」に含まれていた医薬・化粧品を抽出し、今期より「食品・医薬品・化粧品」セグメントを新設
- 食品・医薬品・化粧品は、顧客から要求される品質管理等の規格が似ており、当社として販売する商材も類似。
セグメント化することでより効率的な提案を実施し、
拡販を加速

落ち込みが大きかった前年同期から各項目で二桁伸長

売上高・営業利益は過去最高

FY2026 1Q 決算概要

- 自社製品の販売が多い「電子・半導体」「工作機械」セグメントが好調で業績をけん引
- 前年に落ち込んだ「自動車」セグメントも自社製品の販売が一定復調し、利益伸長
- 自社製品の販売増加により営業利益率が前年同期比で1.2ポイント改善 (5.2%→6.4%)

売上高

13,597百万円

+10.2%

営業利益

874百万円

+36.9%

経常利益

976百万円

+33.7%

親会社株主に帰属する 四半期純利益

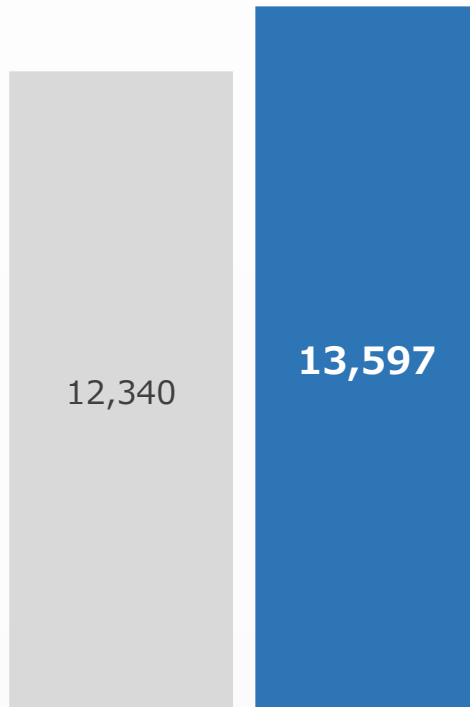
636百万円

+26.6%

前年同期で自社製品の販売が大きく増加し、利益面が伸長

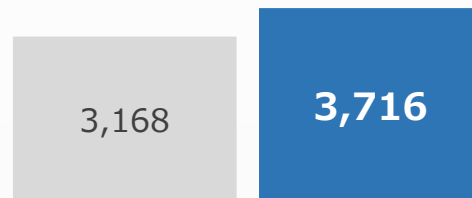
売上高

単位：百万円



- 売上高は前年同期比 + 10.2%と落ち込んだ前年同期から復調。特に自社製品販売が前年同期比で + 19.3%となったため、売上総利益も前年同期比 + 17.3%と大きく伸長。
- 販管費は前年同期比で + 12.4%増加したが、売上総利益の伸長が大きく、営業利益は + 36.9%。
- 前期1Qでは為替差損（約25百万円）が発生していたが、当期1Qは為替差益（約14百万円）に振れた影響もあり、経常利益は前年同期比 + 33.7%と大幅に伸長。

売上総利益



営業利益



経常利益



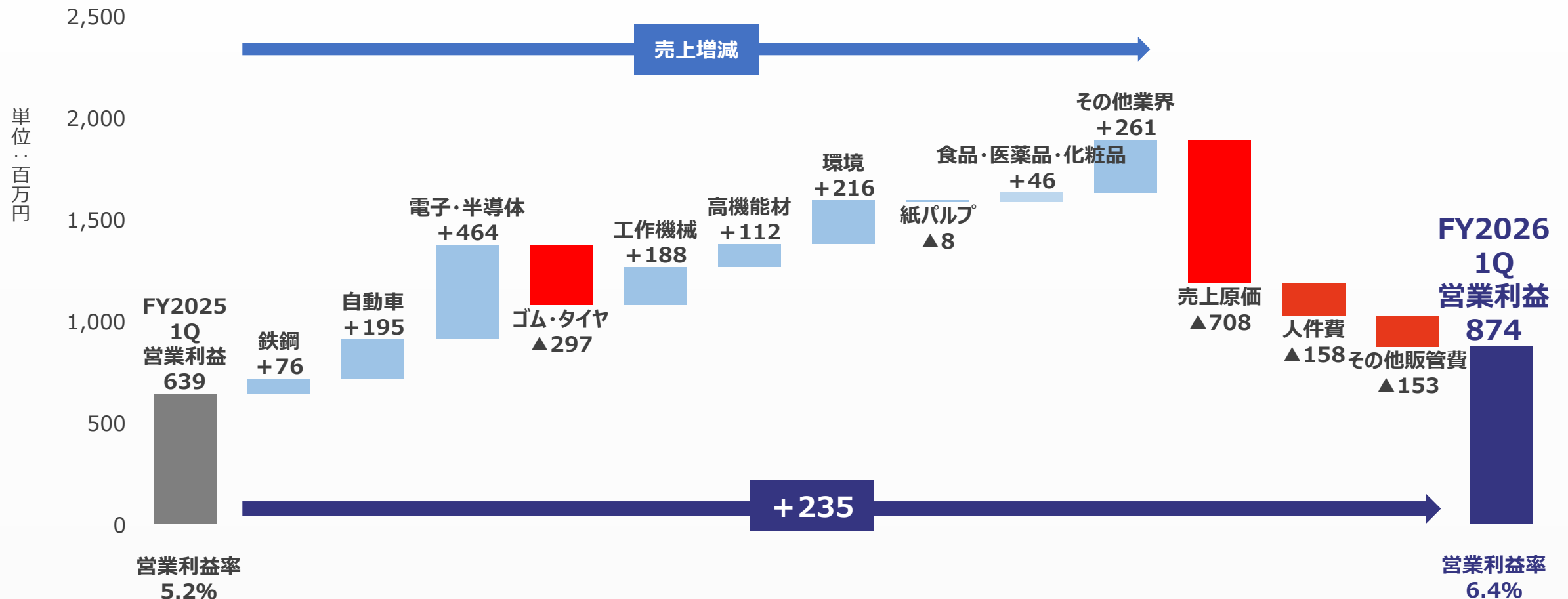
■ FY2025 1Q ■ FY2026 1Q

通期見込み達成に向けて、第1四半期時点では想定通りに推移

単位：百万円	FY2025 (1Q)	FY2026 (1Q)	増減額	増減率	通期予想	通期予想に対する 1Q時点 進捗率
売上高	12,340	13,597	1,257	+ 10.2%	58,000	23.4%
売上総利益	3,168	3,716	548	+ 17.3%	15,540	23.9%
販管費及び 一般管理費	2,529	2,841	312	+ 12.4%	11,320	25.0%
営業利益	639	874	235	+ 36.9%	4,220	20.7%
経常利益	730	976	245	+ 33.7%	4,360	22.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	502	636	133	+ 26.6%	3,000	21.2%

営業利益増減要因 (FY2026 1Q)

- 業界が活況な「電子・半導体」と「工作機械」セグメントの伸長が大きかったほか、前年同期から復調した自動車セグメントが業績をけん引
- 人件費や減価償却費で販管費は増加したものの、利益率の高い自社製品の販売が増加したことで、**営業利益・営業利益率が向上**



- 売上高は9セグメントのうち7セグメントで前年同期比を上回った（過去最高は5セグメント）
- セグメント利益も8セグメントで前年同期比より増加（過去最高は7セグメント）

セグメント別売上高

黄色は過去最高

単位：百万円	FY2025 1Q	FY2026 1Q	前年 同期比
鉄 鋼	3,847	3,924	+ 2.0%
自動車	2,200	2,396	+ 8.9%
電子・半導体	1,713	2,178	+ 27.1%
ゴム・タイヤ	1,074	777	▲27.6%
工作機械	567	755	+ 33.1%
高機能材	443	556	+ 25.4%
環 境	486	703	+ 44.6%
紙パルプ ^o	242	233	▲3.6%
食品・医薬品・化粧品	308	355	+ 15.0%
その他	1,455	1,716	+ 17.9%
合 計	12,340	13,597	+ 10.2%

セグメント別利益

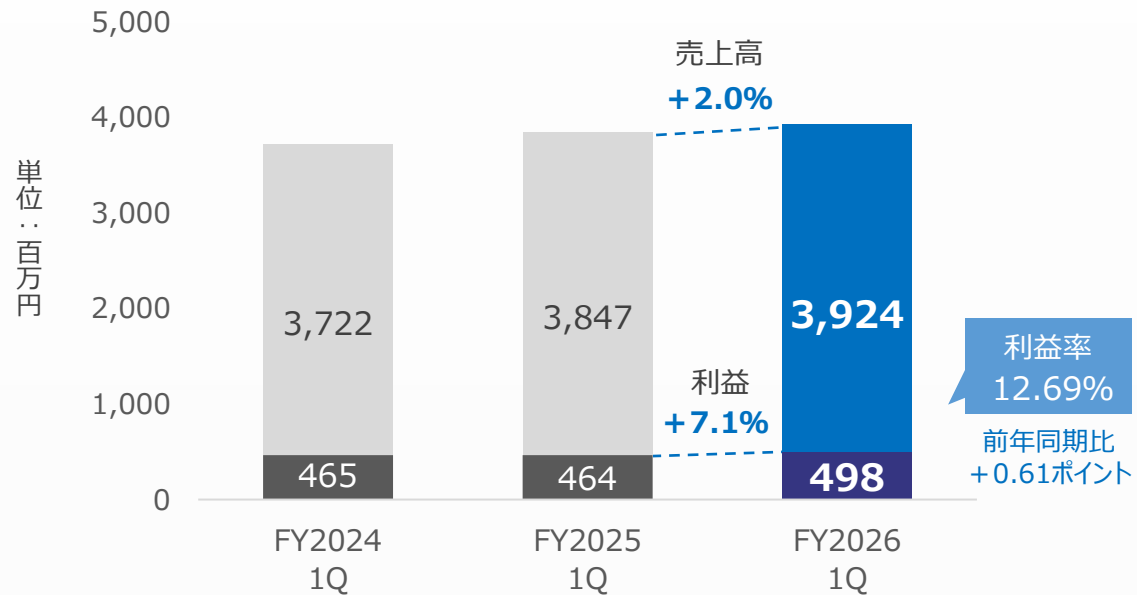
黄色は過去最高

単位：百万円	FY2025 1Q	FY2026 1Q	前年 同期比
鉄 鋼	464	498	+ 7.1%
自動車	141	276	+ 95.7%
電子・半導体	176	322	+ 82.3%
ゴム・タイヤ	115	101	▲11.9%
工作機械	120	253	+ 109.9%
高機能材	59	74	+ 25.9%
環 境	31	80	+ 152.6%
紙パルプ ^o	25	28	+ 11.5%
食品・医薬品・化粧品	19	37	+ 96.3%
その他	248	214	▲13.8%
合 計	1,403	1,886	+ 34.5%

鉄鋼

売上・セグメント利益いずれも過去最高

売上高・セグメント利益推移



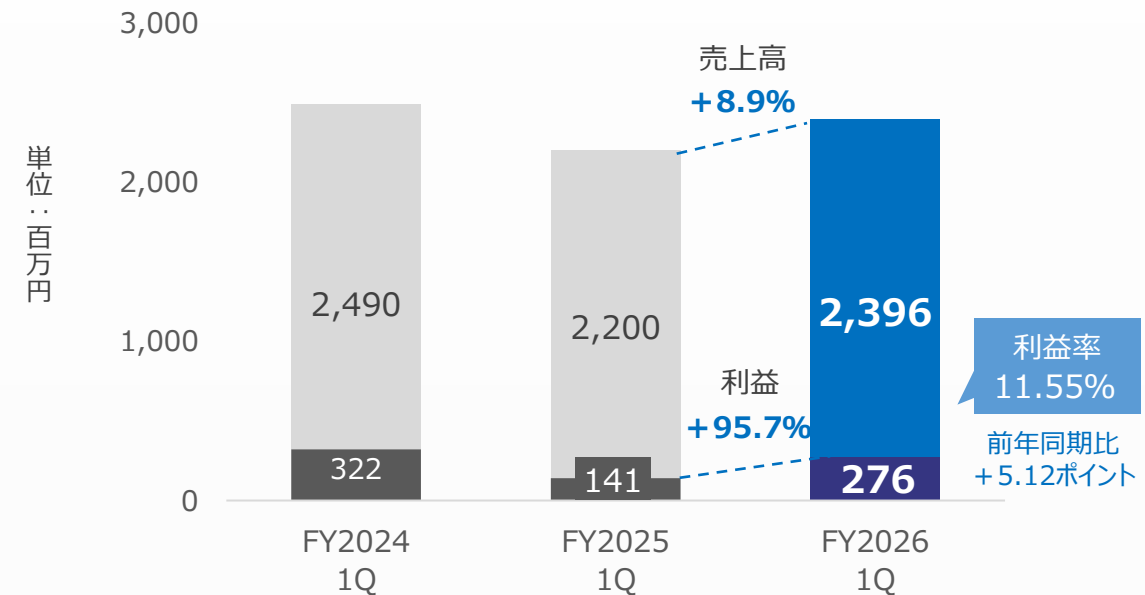
要因

- 主戦場である保守・整備関連の売上が堅調に推移
- インドネシア向けの設備や、国内老朽化設備の更新案件で上乗せ

自動車

落ち込んだ前年同期から復調傾向も過去最高(FY2024)には及ばず

売上高・セグメント利益推移



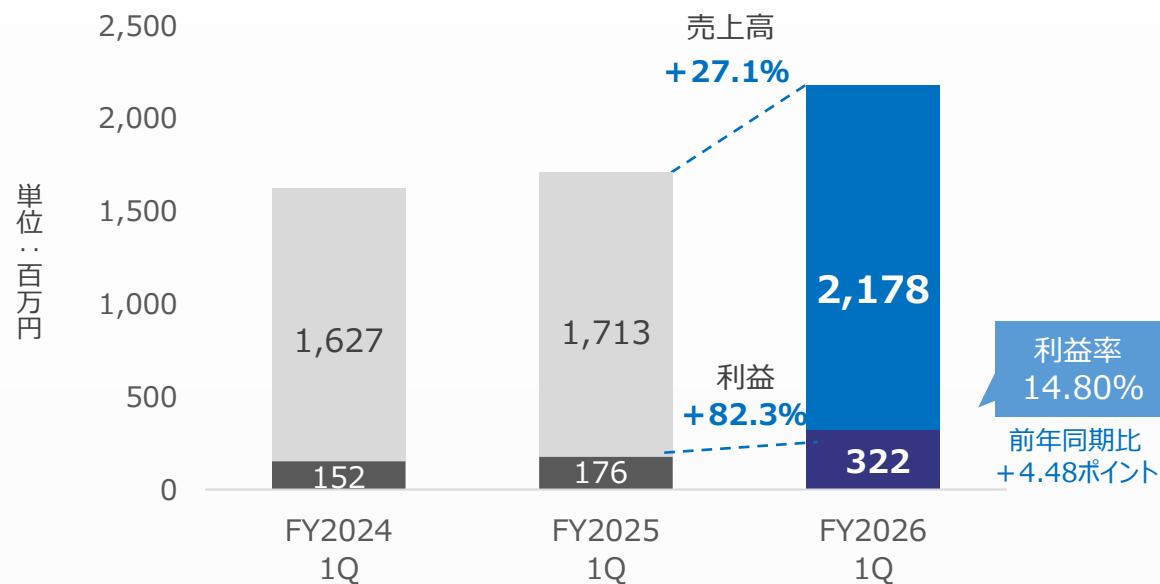
要因

- EV・HEV関連の装置販売（自社製品含む）により、前年同期比で伸長
- 米国関税などで落ち込んだ前年同期からは持ち直したが過去最高には届かず

電子・半導体

活況な業界ニーズをつかみ自社製品などの販売が増加
売上高・利益とも過去最高を大幅に更新

売上高・セグメント利益推移



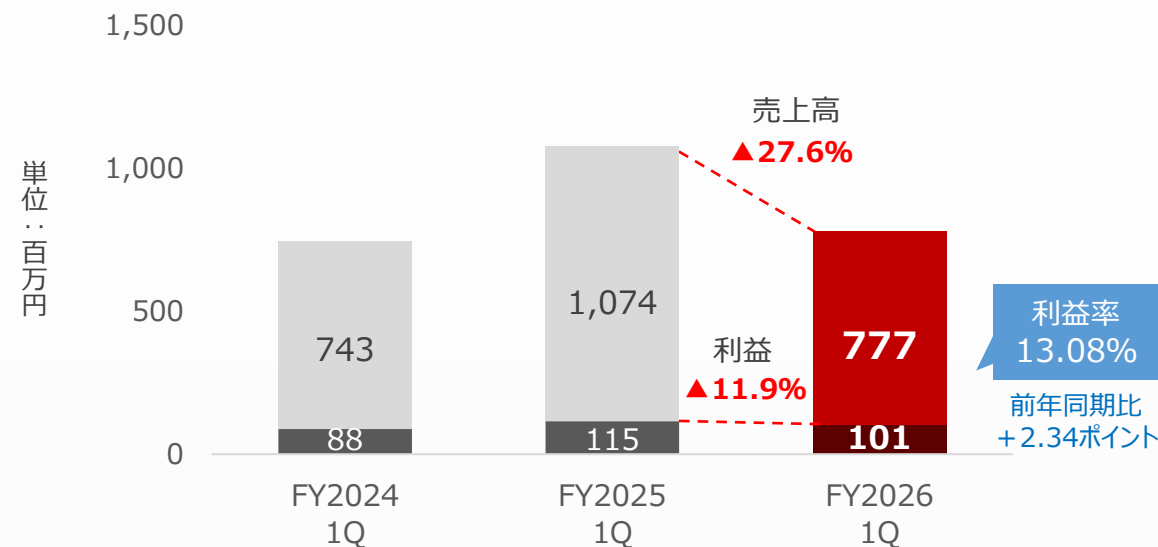
要因

- 自社製品「ロータリージョイント」が前年同期で**売上高 + 約2億4千万円と2倍以上に増加。セグメント利益率も大幅に改善**
- その他もニーズが増加した「修理案件」や「安全対策品」などの販売がけん引

ゴム・タイヤ

新規案件はあったものの
 好調だった前年同期には届かず**売上・利益とも減少**

売上高・セグメント利益推移



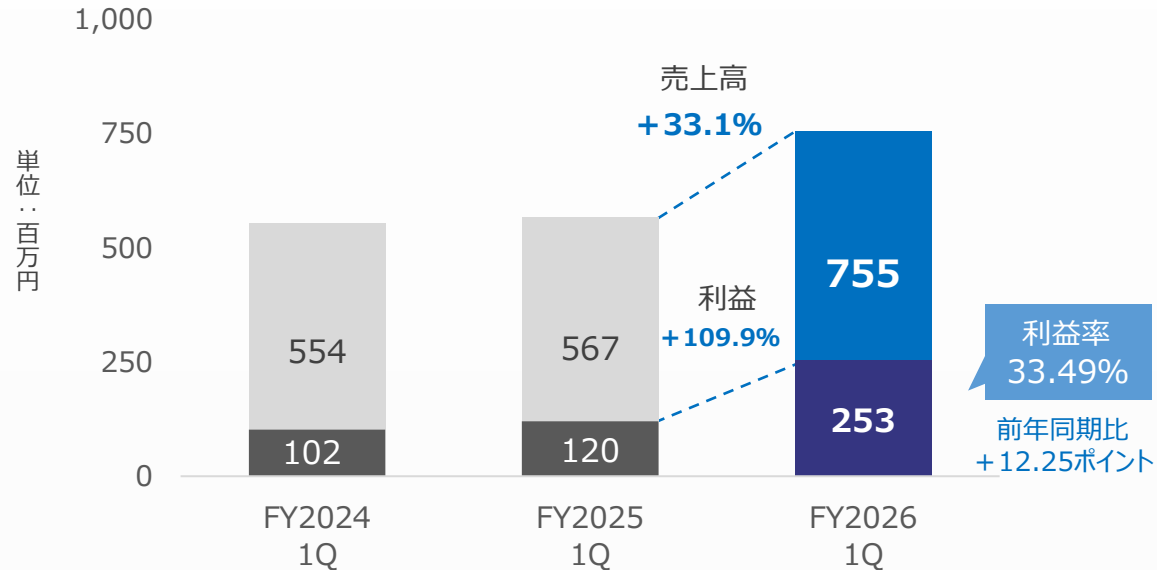
要因

- 混錬工程向けの脱臭装置など新規案件はあったものの、前年同期に好調だったオリジナル品（バルブ類）などの販売減少が響き、**売上・利益とも前年同期を下回った。**

工作機械

好調な業界ニーズをつかみ**自社製品の販売を拡大**
売上・利益とも大幅に伸長し過去最高

売上高・セグメント利益推移



要因

工作機械の受注が世界的に伸びており、機械に組み込まれる当社自社製品「ロータリージョイント」の売上高も**前年同期比の約1.6倍となる+約1億3,600万円**と大幅に伸長。利益面でも大きく貢献

高機能材

売上高	セグメント利益	利益率
556 百万円 + 25.4%	74 百万円 + 25.9%	13.37% 前年同期比 + 0.04ポイント

環境

売上高	セグメント利益	利益率
703 百万円 + 44.6%	80 百万円 + 152.6%	11.39% 前年同期比 + 4.87ポイント

紙パルプ

売上高	セグメント利益	利益率
233 百万円 ▲ 3.6%	28 百万円 + 11.5%	12.36% 前年同期比 + 1.66ポイント

食品・医薬品・化粧品

売上高	セグメント利益	利益率
355 百万円 + 15.0%	37 百万円 + 96.3%	10.57% 前年同期比 + 4.38ポイント

- 今期より「**食品・医薬品・化粧品セグメント**」を新設
- 同セグメント向けは当社が販売する製品・商品が類似しており、より**効率的な提案を加速**

食品・医薬品・化粧品セグメントの当社顧客 ※一部抜粋

大手メーカー様と取引

キューピー / サントリー / 日清食品 / 大塚製薬 / 資生堂 ほか

同セグメントに販売している製品・商品群 ※一部抜粋

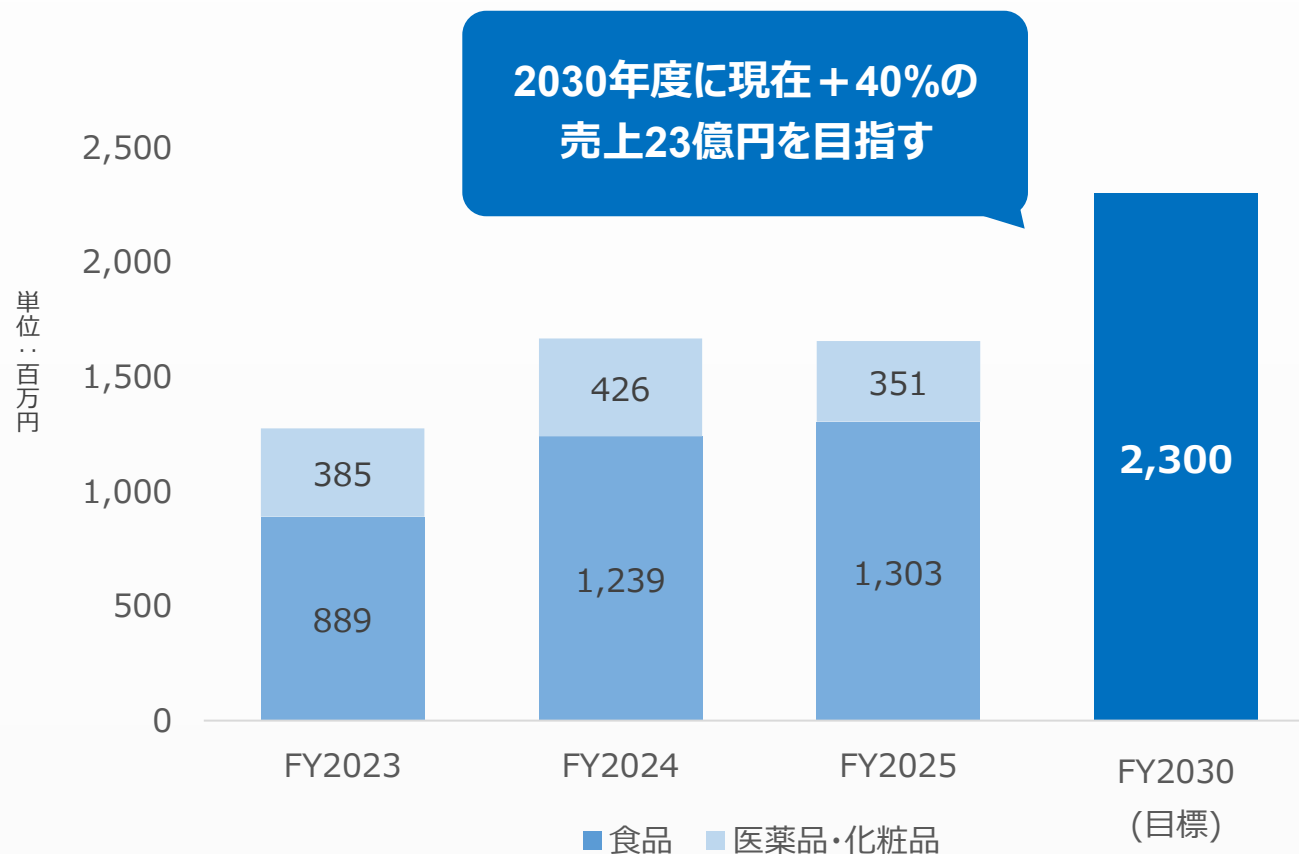
材料を混ぜる・送る工程向けなど幅広く販売

ロータリージョイント / ポンプ / ディスペンサー / フィルター / バルブ ほか

セグメント新設の意図

- 食品・医薬品・化粧品業界は、顧客から要求される品質管理等の規格が類似
- 当社が同業界に販売する製・商品が類似していることから、セグメント化することでより**効率的な提案を実施し、拡販を加速**

セグメント売上高推移と目標 ※数字はいずれも単体



- 売上高＝580億円、営業利益＝42.2億円、経常利益43.6億円といずれも過去最高を予想。自社製品の販売が多い「電子・半導体業界」と「工作機械業界」が伸びる見込みのため利益面で二桁成長を予想。
- 当期純利益は、前期に発生した特別利益（旧本社売却益＝約8.1億円）がない影響で、前年比減を見込む。
- 中東情勢悪化の影響は、物価上昇懸念を「販管費（変動費）」には織り込んでいるが、先行きが不透明なため、現時点で売上高には織り込んでいない。

単位：百万円	FY2025	FY2026 予想	増減額	増減率	構成比
売上高	55,827	58,000	+2,172	+3.9%	100.0%
売上総利益	14,747	15,540	+792	+5.4%	26.8%
販管費	11,210	11,320	+109	+1.0%	19.5%
営業利益	3,537	4,220	+682	+19.3%	7.3%
経常利益	3,897	4,360	+462	+11.9%	7.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,180	3,000	▲180	▲5.7%	5.2%

実証試験とショールームを兼ねる 「リックス陸上養殖設備 岡垣ラボ」建設決定



成育可能な魚種



タイ、エビ、トラフグ、ウマヅラ、マサバ、シマアジ、クエタマ、ヒラメ、サケ・マス類（サーモン）、ウニ、アワビ、アオサ、カニ、ウナギなど

開所時期

2027年上期（予定）

所在地

福岡県遠賀郡岡垣町

事業内容

- 魚の成育や設備の実証試験
- ショールーム機能

設備売上目標

2030年度＝20億円

生産現場のDXを推進 IoT・AIを活用したリモートソリューションを提供するLiLzと資本業務提携



■ 協業内容

- 営業・販売・カスタマーサクセス・製品開発その他の分野における協業
- 当社の海外拠点を活かし、リルズが開発するリモート点検ソリューションのグローバル展開を推進

解決

点検業務の長時間化

製造業の人手不足

IoTカメラ



AIクラウドソフト



■ リルズについて

- 「機械学習とIoTの技術融合で、現場の仕事をラクにする」をミッションに掲げる
- IoTカメラをはじめ、計器の遠隔自動点検、設備の異常検知、プライベートAIエージェントなどのAIクラウドソフトを全て自社開発



売上高・営業利益は第1Q時点で過去最高。

通期では売上高・営業利益・経常利益の過去最高を見込む。



電子・半導体、工作機械セグメントで主力自社製品「ロータリージョイント」の販売が伸長し
売上高・利益面ともに大きく貢献。



今期より「食品・医薬品・化粧品」セグメントを新設。

また、成長分野の取り組みとして、陸上養殖設備の新施設や、IoT・AI企業との連携も加速。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。